

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・平林・合川^c・セルゲイ^c・内藤^c・吉田^c・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 今年度 COE 研究員は合川・大塚・セルゲイ・内藤の4名である。(加藤)
- 総合科学技術会議の戦略型プロジェクトに荷電粒子核反応データのデータマイニングという研究課題で応募した。4月1日に文部科学省で公聴会があった。(加藤)
- IAEA センター長会議は5月27日~30日にパリの OECD/NEA で行われる。現在、加藤とオブザーバー2名(大林・大塚)の参加を検討しているが、資金的な問題があり参加人数は流動的である。(加藤)
- 近江氏の研究員任期が3月で終了した。グラフィードシステムをインターネットで公開した。(加藤)
- 青山氏が5月初旬に IntelligentPad を用いた EXFOR 検索システムのデモを行う予定である。(加藤)
- 日本原子力学会年会でコーディングエディター開発に関する報告を行った。中性子データをコンパイルするグループから関心を持たれている。(大塚)
- OECD/NEA から問合せのあった D248 の数値データについて、定性的に問題がある数値テーブル数件を再読み取りした上で、OECD/NEA に送付した。(大塚)
- 2001年度分、コーディング作業した論文は25編となった。うち未着手の3編について早急に作業開始を依頼する。一連の新グラフィードシステムが順調に稼働しはじめた。5月の運営委員会までに一人2編程度づつコーディング結果の査読をお願いする。(吉田)
- 2001年の原子核実験の論文の分類が進行中である。(内藤)

3:議論

- 年次報告分担
 - ・ 巻頭言(加藤)・ IAEA 会議報告(加藤)・ エディター開発報告(大塚)・ グラフィード使用説明書(近江)・ 辞書 WG 報告(能登・大塚)・ 評価システム開発(大西・大塚)・ ND2001 報告(大林)・ 採録実績報告(吉田)・ 議事録(大塚)・ 業績一覧(編集委員)
- NRDF と EXFOR のコード加除訂正
辞書 WG の提案(別紙)を承認する。
- 重複ファイルの取扱い
1)EXFOR に登録されたファイル、2)NRDF に登録されたファイル、3)データテーブルの多いファイルの順位でマスターを決定する。財政的な目処がついた時点で原論文に当たっての検討を行う。
- 2001年度データ動向の対象論文と反応分類法
ビームが標的の少くとも一方がハドロンである実験を分類対象論文とする。分類は放出粒子で行う(核分裂・ 重イオン・ハドロン)。
- 今年度の活動方針
1) 収集・検索に加え評価(天体核・高エネルギー)を進める。
2) 「原子核研究」や「日本原子力学会誌」に活動について投稿する。
この他、JCPRG の国際的地位向上のために収集対象を中性子データ他に拡張にすることについても議論された。

4:次回

2002年5月20日 17:30より